災害を想定した 避難所生活体験

- ●まずは、参加者で仮眠場所の設営 2非常食のクラッカーの缶のふたを 開ける小学生
- ₃婦人消防協力隊のみなさんもみそ 汁作りで生活体験をバックアップ

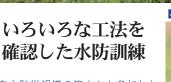


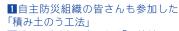






5





3整列した水防隊員

4訓練を真剣に見つめる水防隊員 5

確認した水防訓練

2堤防の亀裂などを防ぐ「五徳縫い工

くい打ち積み土のう工法」で敷き 詰めた砂を踏みしめ、固める作業



地域防災の最前線を担う



一関市消防本部防災安全対策監 Q 1 地震災害から2年が経ちまし たが、当時を振り返っての感想を

発生から時間が経つにつれ被害が 拡大し、地震の脅威を改めて感じま した。また、早期に市の災害対策本部 を設置し、関係機関と連携してその 日のうちに孤立した215人を救出す ることができました。初動体制がい かに大切かを痛感しました。

Q2 この2年間、消防本部で地震 災害を教訓として特に力をいれてき たことはありますか

自主防災組織の結成促進、市民へ の各種研修会や避難所生活体験など 実務型訓練を開催し、防災の普及・促 進に努めています。

Q3 水防訓練や避難所生活体験な どに参加されている皆さんからは 「日ごろの備えが大切」というご意見 もいただきましたが

消防、防災に携わる者として大変 心強く思います。普段から消防・防災 セミナーや地域の訓練などに積極的 に参加し、地域防災力を高めていた だきたいと思います。

Q4 高い確率で発生が予想されて いる宮城県沖地震などへの対応で大 切なことは何でしょうか

広範な被害が予想されますので、 早急な公助を望むことはできないと 思います。日ごろから皆さん一人一 人が「自分の命は自分で守る」という 自助意識、「自分たちの地域は自分た ちで守る」という共助意識を持ち 行動することが大切です。





役割分担し ながら体験

東山町松川の東山農村勤労福祉キャンプ)は、7月24日と25日に避難月生 0 らおう 要な知識や備えを身につけても による避難所生活を体験 避難所生活体験(サバイ と消防本部が主催したも

難したとの想定でいろいろな体準したとの想定でいろいろな体の倒壊やライフラインが寸断されたことから住民が避難所に避れたことから住民が避難所に避れたことから住民が避難所に避れたことから住民が避難がなり。

なければ」と語っていました。

生活を開始。ダンボール参加者らは、4班に分 を敷れ き

て学んでいました。

めていました。 地震に備えたい」と気を引き締心に、高い確率といわれている 成4年の台風6号の災害では、(63)は「初めて参加しました。平った松川字野平の石崎泰男さん が全く駄目になり、大変な思実際にこの辺りもライフライ で今回の生活体験の会長役とな会場となった松川地区の区長

験をしました。

こことや屋外での非常食を作ることや屋外での非常食を作品が、仮町ます

の対応についてわたしたちに多内陸地震。大規模な自然災害へと年前に発生した岩手・宮城 くの教訓を残しました。

行われ、災害への備えの必要性サバイバルキャンプがそれぞれをは避難所での生活を体験する した水防訓練が、7月24日、25日 7月4日は、大雨災害を想定 確認しまし

本番さながらの 練

23年に本市を襲ったカスリン、 別練は、戦後間もない昭和22年、 別無は、戦後間もない昭和22年、 別の一関遊水 防技術の向上を図るため行われアイオン台風の被害を教訓に水 織を立ち上げてから、何かでき原良雄さん(73)は「自主防災組の塩のう工法に参加した機織山の塩自主防災組織の会員で積み土

っています。1加しました。2

当時の大水害も

ることをしなければと思って

防ぐ「積み土のう工法」などを実終い工法」、川からあふれる水を法」、堤防の亀裂などを防ぐ「五徳法」、堤防の亀裂などを防ぐ「五徳などの被害が出たとの想定で行 中、それぞれの工法の手順を確認び交う本番さながらの雰囲気の 施。確認や指示のための大声 していました。 川が増水し、堤防に亀裂が入る 訓練は、 が飛 と北 台

風の接近による雨で磐井川と人が参加しました。 訓練は百主防災組織などから約46